

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 232人

② 数学 232人

5 留意事項

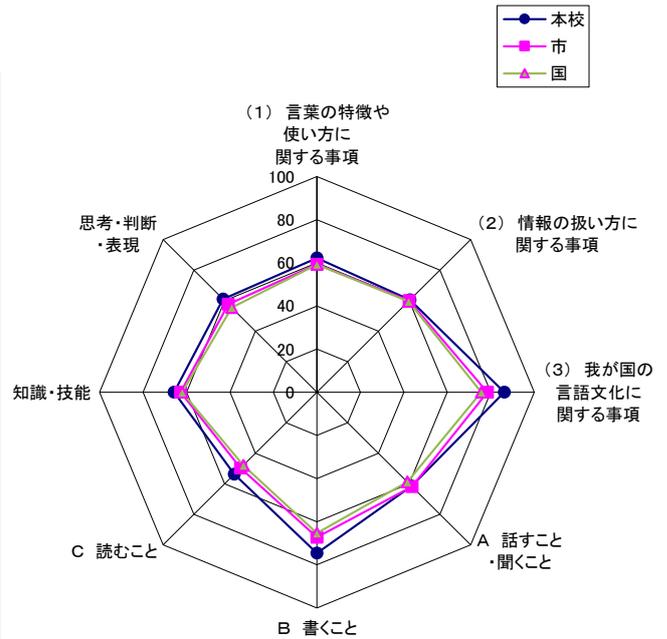
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62.2	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	60.6	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	86.2	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	61.6	61.8	58.8
	B 書くこと	74.6	67.2	65.3
	C 読むこと	53.8	49.7	47.9
観点	知識・技能	65.7	62.7	62.0
	思考・判断・表現	61.0	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

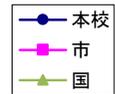
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○すべての設問で全国・市の正答率を上回っている。 ●文脈に即して漢字を正しく書く設問では、正答率が72.4%である一方で、無回答率が8.6%だった。	・今後も引き続き漢字テストを実施していく。また、日頃から漢字を用いて文章を書くよう指導し、普段から漢字を使いこなせるように指導する。 ・国語辞典を用いて語彙力の向上を図る。 ・文法や表現技法に関しては、定期的に復習の時間を設ける。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○意見と根拠など情報と情報との関係についての設問においては、全国平均より2.6ポイント、市平均より1.7ポイント上回っている。 ●具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる設問では、「抽象」という言葉の意味が理解できておらず、全国平均より0.6ポイント、市平均より0.5ポイント下回っている。	・引き続き、実際の文章において、事実と考え、推測と意見などの情報を区別できているか、また関係はどうなっているのかを丁寧に確認する。 ・必要に応じて、複雑な情報は、適切な項目を立て、図や表を用いて整理させる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○行書の特徴についてよく理解しており、全国平均より10.6ポイント、市平均より7.8ポイント上回っている。 ●基本的な行書の特徴を理解しておらず誤答となっており、選択式の設問であったが、無回答率が1.3%だった。	・今後も書道の授業において、楷書と行書の違いを確認しながら、実際に書く時間を十分に確保する。 ・普段の生活でも、行書を活かした書く活動を行うようにする。
A 話すこと・聞くこと	○おおむね全国・市の正答率を上回っている。また、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる設問では、無回答率が0%だった。 ●話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる設問の正答率は、市平均より2.5ポイント低く46.1%であり、無回答率が7.3%だった。	・音声教材を使った聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨を正確に聞き取る力をつけさせる。また、授業の中で先生の話や級友の意見を聞きながら、メモを取る訓練を計画的に行う。 ・授業中に話し合いの活動を意識的に取り入れる。単に話し合いをするのではなく、相手の発言に対して意図的に質問しながら話し合いを進め、自分の考えをまとめられるようにする。
B 書くこと	○すべての設問において全国・市の正答率を上回っている。特に、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかという設問では、正答率が87.1%であった。 ●自分の考えが伝わる文章になるように工夫する設問では、全国平均より12.8ポイント、市平均より9.8ポイント上回っている一方で、無回答率がすべての設問の中で最も高い11.2%だった。	・授業の中で発問に対し、自分の意見を書く活動を増やし、書くことへの抵抗感を減らす。その際、必要に応じてタブレット端末を活用する。また、文を書く上での決まりや、文末の処理等は全体で確認する。 ・実際に書いた文章を生徒同士で読み合い、良いところや、改善できるところを互いに指摘する機会を設ける。
C 読むこと	○文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかという設問の正答率は、全国平均より6.8ポイント、市平均より3.7ポイント上回っている。 ●目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる設問において、誤答のほとんどが必要条件を満たさず回答しており、無回答率は5.6%だった。	・読む力を養うために、積極的に文章に触れる機会を作る。また、文章の内容が理解できているのか場面ごとに確認したり、設問に関しては問われていることは何かを確認したりする。 ・問いに対して本文を抜粋して答えるのではなく、自分の言葉で表現できるように指導する。

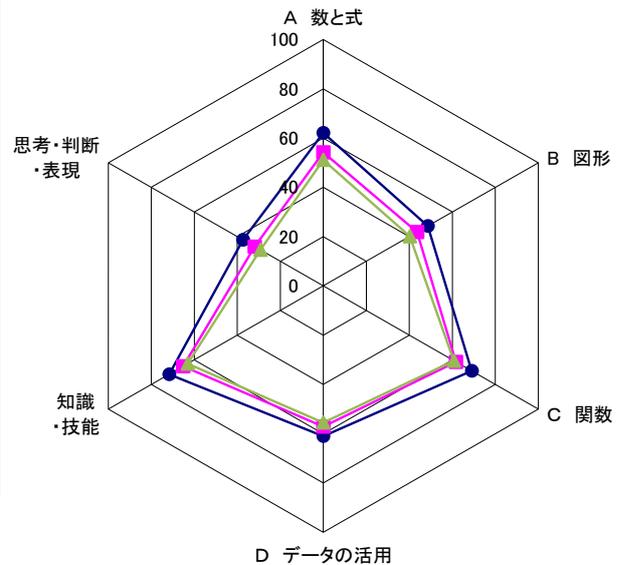
宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	62.1	54.2	51.1
	B 図形	48.6	43.6	40.3
	C 関数	69.0	61.7	60.7
	D データの活用	61.0	57.1	55.5
観点	知識・技能	71.7	65.2	63.1
	思考・判断・表現	37.3	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>○すべての設問において、全国・市の正答率を上回っている。特に、等式変形の短答式の設問については、全国平均より17.8ポイント、市平均より15.8ポイント上回っている。設問場面における考察の対象を明確に捉え、正の数・負の数の加法の計算ができるかを問う設問では無回答率が0%であった。</p> <p>●思考・判断・表現についての記述式の設問の正答率は全国・市平均より上回っているが、無回答率が22.0%の設問もあった。</p>	<p>・引き続き基礎・基本の定着を図るために、指導法の工夫と反復学習を継続する。</p> <p>・記述式の設問で無回答率を下げるために、授業で一人一人の生徒が課題解決に向き合えるような工夫や、自ら積極的に設問を読んで理解しようとする態度を育成できるような工夫を行う。</p>
B 図形	<p>○事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題では、正答率が34.5%であり、全国平均より7.8ポイント、市平均より4.1ポイント上回っている。回転移動について理解しているかどうかを見る設問では、無回答率が0%であった。</p> <p>●思考・判断・表現についての記述式の設問では、正答率は全国・市を上回っているが、無回答率が21.6%であった。</p>	<p>・筋道を立てて証明をしようという意欲的な態度をもつ生徒が多くいるため、指導法を工夫する。</p> <p>・点が動くことによる角度の変化の概念を身に付けるために、ICTを工夫して取り入れて、イメージしやすいようにする。</p> <p>・証明を書く際に、根拠や表現が不十分な場合が多いため、知識・技能の定着を目指し、指導の改善を行う。自主学習でも反復学習を促す。</p>
C 関数	<p>○すべての設問において、全国・市の正答率を上回っている。特に、一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる設問では、全国平均より11.4ポイント、市平均より9.5ポイント上回っている。</p> <p>●知識・技能の選択式の設問の無回答率は、全国・市の平均を上回っている。思考・判断・表現の記述式の設問では、無回答率が全国・市の平均より5.2ポイント下回っており、11.2%であった。</p>	<p>・一次関数の式を求めたり、グラフをかいたりすることについては意欲的に取り組む生徒が多い。それぞれの関連性についての指導を重点的に行う。</p> <p>・課題解決の方法を数学的に説明できるよう、数学的な表現の仕方を日頃から意識させ、授業の改善を図る。</p>
D データの活用	<p>○4問中3問の設問で全国・市平均の正答率を上回っている。特に、複数の集団データの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる設問では、全国平均より10.6ポイント、市平均より8.2ポイント上回っている。</p> <p>●複数の集団データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する設問では、全国平均より0.5ポイント、市平均より3.4ポイント下回っている。</p>	<p>・複数の集団データの分布の傾向を読み取り、比較していくような設問を授業で取り上げ、統計的に課題を解決できるよう指導する。</p> <p>・説明する設問での無回答率を下げるために、授業で一人一人の生徒が課題解決に向き合えるような工夫や、多様な考えの比較検討をできるような指導法の工夫を行う。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の肯定的回答の割合は、全国平均より10.3ポイント、県平均より7.3ポイント上回っている。各家庭における教育力の高さを示していると考えられる。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答の割合は、全国平均より6.6ポイント、県平均より3.4ポイント上回っており、97%と高い割合を示している。また「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的回答の割合は、全国平均より8.9ポイント、県平均より5.9ポイント上回っている。生徒が教職員に認められたことを素直に受け入れる気持ちが強く、教職員との関係も良好であると考えられる。今後も生徒の悩みなどに寄り添っていききたい。

○「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の肯定的回答の割合は、全国平均より6.4ポイント、県平均より5.2ポイント上回り、89.7%と高い割合を示している。仲間を受け入れる気持ちがあり、学級経営の良好な状況が見られる。今後も周囲の考えを尊重し生活できるよう支援していききたい。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の肯定的回答の割合は、全国平均より12.2ポイント、県平均より7.0ポイント上回っている。授業において、課題解決学習に積極的に取り組んでいることが分かる。今後も計画的な課題解決学習を行っていききたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の肯定的回答の割合は、全国平均より8.5ポイント、県平均より4.4ポイント上回り、94.8%と高い割合を示している。また「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の肯定的回答の割合は、全国平均より6.1ポイント、県平均より3.6ポイント上回り、94%と高い割合を示している。授業の中で生徒が互いに意見を伝え合い、受け入れる姿勢ができていると考えられる。言語活動は学力向上にもつながるので、今後も充実させていききたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の回答「2時間以上」の割合は、全国平均より3.6ポイント、県平均より2.5ポイント下回り、2.5%と低い状況にある。今後、端末活用技術の向上などのためにも端末を使用する課題を出していききたい。

●「新聞を読んでいますか」の回答「週1日からほぼ毎日」の割合は、全国平均より0.8ポイント、県平均より0.3ポイント下回り、6.5%と低い状況にある。新聞を読むことは読解力を身に付け、教科の学力向上につながると考えられる。近年は新聞を取らない家庭も多いため、学校教育活動の中で新聞を取り入れる機会を増やしたい。

宇都宮市立宮の原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいの明確化 ・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの提示と振り返りを行う。 ・5分前着席や態度の指導を行う。 ・課題の提出を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの提示と振り返りはおおむね徹底できている。 ・5分前着席はおおむね徹底できている。 ・家庭学習は毎日自主学習ノートを提出させることでおおむね徹底されている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用に課題がある。 ・新聞をはじめとした活字を活用する機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用した授業の実践を図る。 ・新聞等活字を読み込む活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用した授業を実践したり、家庭学習の課題において積極的に活用したりする。 ・各教科や学級活動において、NIE (Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」学校などで新聞を教材として活用する活動) を実践する。